



やまとたかだ元気ウィーク

平成 27 年 11 月 7 日～ 15 日の「やまとたかだ元気ウィーク」の期間、市内各所で、さまざまなイベントが行われました。14 日～ 15 日には、JR 高田駅東広場で全国から集った「ゆるキャラ」たちのステージショーや、グルメ・うまいもん市、野菜の品評会などがあり、たくさんの人でにぎわいました。大和高田・リズモー都市友好協会は前年に続き、ラムinton を販売しました。平成 27 年にリズモーを訪れた派遣学生たちも、販売の手伝いをしました。用意したラムinton 500 個は、夕方までに完売しました。



外務大臣表彰受賞 ジェニー・ドウェル リズモー市長



高岡正人総領事（写真右）から賞状を受け取るジェニー市長

大和高田市と姉妹都市である、オーストラリア・リズモー市のジェニー・ドウェル市長が、平成 27 年度の外務大臣表彰を受賞されました。外務大臣表彰は、日本と他の国の友好促進に多大な貢献をした個人や団体に授与されるものです。

2008 年に市長に当選したジェニー市長は、1963 年の姉妹都市締結当時から続く両市間の友情を大切にしてきました。2013 年の姉妹都市締結 50 周年記念事業や、日々の手紙の交換、Skype 交流など、親密な友情関係を保つための交流をしています。

ジェニー市長は、「このような表彰にあずかり、大変光栄です。私は日本をとっても愛しています。日本を訪れてから、特にその気持ちは大きくなり、大和高田市長や市民の方々と築き上げてきた友情は、私にとって特別なものです。…この度の受賞は、私たちが 52 年前の姉妹都市締結当時と変わらず、今日もその友情を大切に尊重していることの証です」と話しました。



The Bamboo Shoots

～地方季刊新聞～
大和高田・リズモー都市友好協会 発行
2015 年 秋・冬号

No.167

連絡先：大和高田・リズモー都市友好協会
TEL：0745-22-1101
<http://www.city.yamatotakada.nara.jp/lismore/>

このパンフシューツ（筍）が、大和高田市とリズモー市の情報交換に役立つ立派な竹に成長しますように



えいごであそぼう！

9 月 27 日に、5 歳の幼稚園・保育園児から小学 2 年生までを対象とした、英語とふれあうイベント「えいごであそぼう」を、ゆうゆうセンターで開催しました。姉妹都市のリズモー市から大和高田市を訪れていた派遣学生 7 名も、一緒に参加しました。

会場には、リズモー市と大和高田市の風景写真、オーストラリアの本、服、アボリジニの絵、ブーメランなどを展示しました。展示していた「クリケット」の道具は、日本ではあまり馴染みがありません。そこで派遣学生たちは、その道具を使って、どのようにして遊ぶのかを実演しました。

子どもたちは、派遣学生たちと一緒に歌い、踊り、楽しい時間を過ごしました。

参加した子どもたちは、「いつか日本と季節が逆の、オーストラリアに行ってみよう」と話していました。



派遣学生へのアンケート

9月25日から10月4日までの10日間、7名の高校生と1名の引率のリズモー市職員が大和高田市を訪れました。一行は、9月27日に開催した、「えいごであそぼう」に参加したり、広島での平和学習や奈良東大寺観光、市内の小学校、高田商業高校で、学校生活の体験をしました。学生たちに、帰国する前に、今回の派遣についてアンケートに答えていただきました。



(1)大和高田市の第一印象は？

- ・リズモー市とはとても違い、車は小さく道路は狭いが、大和高田市では、上手に運転されていると思った。
- ・私が、最初に予想していたよりも、大きくて発展した町だった。そして、郊外や田んぼは、驚くほどの美しい眺めだった。
- ・第一印象は、リズモー市よりかなり都会的であるように思った。でも、数日たつと田畑やさくらコトンの栽培地が美しく、その周りに建っているビルとの対照的な美しさを感じた。なんて大きな町なんだろうと驚いたが、リズモー市と比べて見ると、小さい町なんだと思った。
- ・大きな町で、とても多くの家が建ち並んでいた。道路はとても狭いので、日本人の運転手は、驚くほど運転が上手だと思った。
- ・大和高田市はリズモー市とは、とても違っていた。道や家は密集していたけど、とても魅力的な町だった。あちこち見てまわるのが簡単で、それは町の利点なんだと思った。10日間を過ごし、大和高田市は「ふるさと」として、私の心の中では特別な場所として残っている。
- ・極めて美しく、整頓された町だった。人々は、素敵で心優しくかった。

(2) 広島では、楽しめましたか？ 広島についての印象は？

- ・はい、とても楽しみました。広島は、苦しい過去を持ちながらも、驚くほどの復興をしてきたという印象を持っています。
- ・はい、有意義な経験が出来た。広島は衝撃的で、信じられないくらい、とても人の心を惹きつける歴史的な出来事で満ち溢れていた。永遠に私の記憶に残ることでしょう。
- ・広島では十分楽しみました。原子力爆弾が落とされて、10年後には十分に復興したという印象を持っています。

私たちは、歴史の流れについても学ぶべきで、というのは、学ばないなら、必ず繰り返すことになるからです。

- ・広島に行って、素晴らしい経験ができた。原子力爆弾がもたらす恐怖について学ぶため、その事が、世界に平和をもたらすということを理解できるように、一生に一度は、訪れるべきです。
- ・広島は、とても良かった。美しく、広々としていて活気のある場所だった。広島平和記念館の訪問は、とても悲しいものでした。罪の無い日本国民に、つらい痛みを負わせたのを、理解するのが難しかった。
- ・広島では、決して忘れられない経験をした。いつかまた戻って広島を訪れたい。

(3)文化や習慣の違いで驚いたことは？

<生活について>

- ・多くの家族が祖父母の家に住んでいた。スリッパは、家をとて清潔にするように思った。食事の前後に決まってその食べ物に感謝していた。
- ・家族みんなでお互いに全ての家事をしていて、感心した。
- ・オーストラリアでは、誰かが「いただきます」と、食事の前に言う習慣は無いが、日本では、色々な決まり事があり、それには必ず理由があるとわかった。
- ・家が隣同士、近くに建っていて、庭もなくオーストラリアとは、とても違うと感じた。そして、家族はとても寝るのが遅く、早く起きるように思った。オーストラリアとは違うけど、睡眠については、オーストラリアの方が好き。
- ・シャワーが少し違って、オーストラリアでは壁に固定されているが、日本ではシャワーヘッドが壁から取り外しの出来るものだった。私も他の生徒も思ったことだが、日本人は11時～12時ごろのかなり遅くに寝るが、オーストラリアでは、午後8時30分～10時30分ごろには、たいいて寝る。
- ・お互い尊重し合い、とても清潔だったこと。日本には、私もずっとそこに住みたいくなるような、素晴らしい生活様式があった。

<学校について>

- ・学校生活はとても面白く、壁に傷一つなく清潔で、校舎は横に長く建てる代わりに、高く建てられていた。生徒たちも、とてもよく言うことを聞いていた。
- ・それぞれの生徒たちは、授業に夢中になっていた。
- ・朝早くから、学校に来て、放課後のクラブ活動で午後5時過ぎまで、生徒たちが学校に居ることにとて驚いた。オーストラリアでは、授業が始まる時は立ち上がり、先生にお辞儀をしないし、学校に履いて行っている靴の代わりに校内で、スリッパに履き替えたりしない。
- ・私は、小学校の給食から高校の体育の授業まで、学校生活を楽しみました。このような経験ができて幸せだった。
- ・日本の学校生活は、オーストラリアと比べて、とても違っていた。午前中の毎時間の授業では、生徒たちは授業ごとの教室にいる。また、生徒たち自身で学校を掃除していたが、オーストラリアではしない。放課後のクラブ活動では、それぞれのレベルにあった練習の方法がとても良いと思った。日本では、クラブ活動がやりやすいと思っ



た。

- ・オーストラリアよりも、とても礼儀正しく、お互いに尊敬しあっていた。ここで学んだことを、私の学校に持ち帰りたいと思います。

(4)ホストファミリーについて、一番印象に残っていることは？

- ・ホストファミリーの方々の優しさと、私を手放しで温かく受け入れてくれたこと、素晴らしい料理と気遣い。私を理解しようと努めてくれたことなど、すべてのことについてとても感動した。
- ・ホストファミリーの優しく温かい心。さらに私の全ての希望を受け入れてくれたこと。日本での経験は私のホストファミリーなしでは、そのような感動はなかったことだろう。
- ・ホストファミリーはとても優しく私を受け入れてくれた。意見の疎通で少しは困難があったに違いないが、その結果わかりやすい英語を喋ることが出来た。さまざまなことで私を感動させてくれたので、たった一つの事をあげることは出来ない。ホストファミリーの援助がなかったら、私が日本で経験した全ての事をする機会は無かっただろう。
- ・ホストファミリーはとても素晴らしい人たちだった。私に心を開いてお世話をしてくれた。法事に参加させてもらい感謝した。その経験をいつまでも心に抱いておきたい。
- ・ホストファミリーは家族の一員として、とても優しくしてくれた。信じられないくらい優しく助けてくれて、私を見守ってくれた。言葉の壁に悩むことなく、たとえお箸の使い方が下手だったとしても、いつも上手だと褒めてくれた。私は、家族の一員として受け入れてくれたホストファミリーを決して忘れません。
- ・今までの中で、最高のホストファミリーだった。とても優しく素晴らしい人たちで、ずっと私の心に残ることだろう。私たちは、一つの家族となりました。

ホストファミリーへのアンケート

(1)派遣学生を受け入れて戸惑ったことは？

- ・日本語が通じなかったこと。
- ・食事では、白ご飯と水しか好きなものが無いとのことで、毎日気を遣った。
- ・何が食べれないのか、好みのものを出せているのか、無理をして食べているのではないかと、不安だった。
- ・自分自身の英語力がなかった。
- ・食が細くて口に合う食事は何かと、悩んだ。

(2)文化(習慣)の違いを実感したことは？

- ・食事を除いては、文化の違いを感じなかった。
- ・お箸を使うこと。
- ・シャンプーを毎日しないこと。
- ・就寝時間が早かった(午後9時ごろ)。

(3)一緒に過ごして楽しかったこと、嬉しかったことは？

- ・毎日夜に家族と和やかに遅くまで話をしてくれたこと。
- ・休みの日に大阪に出かけて船に乗ったり、大阪城をエスカレーターを使わずに階段で上ったり、とても興味を持ち満足してくれたこと。
- ・お弁当をお箸を使って完食してくれたこと。
- ・日本語を覚えてくれたこと。
- ・全ての時間が楽しく、大きな声で一緒に笑いあえてとてもハッピーだった。
- ・日本について、よく知っていて驚いた。
- ・自分の家族やオーストラリアの写真を見せてくれたり、話をしてくれた。
- ・私たちのことを日本の家族と言ってくれたり、またいつか来日して会えることが、今の夢だと言ってくれたことが、嬉しかった。

(4)また機会があれば、ホストファミリーをしたいですか？

- ・是非したいと思う
- ・時間があれば、したいと思う

